

# 主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 8

福音書において (8)

過越と仮庵の祭り

聖書：ヨハネ 1:29. 6:4, 56-57. 7:2. I コリント 5:7-8. レビ 23:39-43

I. わたしたちはキリストを過越の小羊としてだけでなく、過越のあらゆる面として享受することができます——ヨハネ1:29. 6:4, 56-57. 出12:11-14. I コリント 5:7:

- A. わたしたちはキリストの中へと信じた日に、新しい誕生、新しい開始を持ち、「聖なる暦」にしたがったわたしたちの時代が始まりました——出 12:2-3. 13:4。
- B. 小羊があらゆる家のためであることが啓示するのは、神の救いの単位が家、家族であるということです—— 12:3-4. ルカ 19:9. 使徒 11:14. 16:30-31。
- C. 過越の小羊が四日間調べられ、傷のないものでなければならなかったのと同じように、キリストも調べられ、完全であり、落ち度がないことが見いだされました——出 12:5-6. ヨハネ 8:7, 46. 18:38. 19:4, 6。
- D. 小羊が一歳でなければならないことは、神の目に主イエスが十字架に付けられたとき、新鮮であり、決して別の目的のために用いられなかったことを啓示しています——ヘブル 10:5-10。
- E. 小羊がイスラエルの集団の全会衆によって殺されたのと同じように、わたしたちはみな神の小羊を殺すことにおいて分を持ちました——出 12:6. 使徒 3:14-15. ヨハネ 19:20. イザヤ 53:5-6。
- F. 過越の小羊の肉が命の供給のために食べられるためであったのと同じように、わたしたちはキリストをわたしたちの命の供給のために食べる必要があります——出 12:8-10. ヨハネ 6:53, 55-57:
  - 1. 人の墮落の問題を解決するために、また神の当初の意図を達成するために、命と贖いの両方が必要とされます。
  - 2. キリストの血を通しての神の法理的な贖いは、キリストを命としてわたしたちの中へと分与して、わたしたちを有機的に救うという神の目標に到達するための手段です——ローマ 5:10。
- G. 小羊の肉は火で焼かなければならず、生のままで食べたり、煮て食べたりしてはなりません——出 12:8-9:
  - 1. 火で焼くことは、キリストが神の裁きの聖なる火の下で苦しむことを表徴します——イザヤ 53:4, 10. 詩 22:14-15. ヨハネ 19:28。
  - 2. 生のままで食べることが表徴するのは、キリストの贖いを信じないで、彼を単なる模倣すべき人の生活の模範と見なすことです。
  - 3. 煮て食べることが表徴するのは、彼の十字架上の死を贖いのための死と見なすのではなく、殉教のための人の迫害の苦難と見なすことです。

- H. イスラエルの子たちは小羊をその頭、足、内蔵と共に食べなければなりませんでした。これが表徴しているのは、わたしたちがキリスト全体を、彼の知恵、彼の活動、彼の行動、彼の内側の愛情と感覚と共に受け入れなければならないということです——出 12:9。
- I. 小羊はパン種のないパンと苦菜と共に食べられなければなりませんでした。これが表徴しているのは、すべての罪深いことを取り除くことと、それらに関して苦い味わいを持つということです——8節。
- J. イスラエルの子たちは、過越の小羊の骨を一本も砕いてはなりませんでした——46節：
1. 主イエスが十字架につけられた時、彼の骨は砕かれませんでした——ヨハネ 19:33, 36。
  2. キリストの砕かれない骨が表徴するのは、彼の砕かれない、不朽の永遠の命が彼の命をわたしたちの中へと分け与えるということです——ガラテヤ 2:21-22。
- K. イスラエルの子たちは、腰に帯を締め、足にサンダルを履き、手に杖を持ち、急いで小羊を食べなければなりませんでした——出 12:11：
1. 小羊としてのキリストを食べることは、わたしたちを活気づけて、この世であるエジプトから出て行かせます。
  2. 贖われた者たちは、神の軍隊となることができるような方法において過越を適用しました。——17節, 41, 51節. 13:18。
- L. 小羊の血は鉢の中にあり、一束のヒソプによって家のかもと二本の門柱に付けられなければなりませんでした——12:22：
1. ヒソプは植物の中で最も小さいものであり、信仰を表徴します。それは量において最も小さいものです。そのような小さな信仰によって、キリストの血は適用されます——列王上 4:33. マタイ 17:20。
  2. 小羊の血が大きな器ではなく、鉢の中にあることが表徴するのは、わたしたちの回心の経験において、キリストの贖いの血が適用するのに小さく、容易な方法でわたしたちに対して用いることができるようになったということです。
- M. キリストは小羊、パン種のないパン、苦菜であるだけでなく、そのかもと門柱に贖いの血が付けられた家でもあります——I コリント 1:30. エペソ 1:7：
1. 血はわたしたちがキリストの中へと入る道を開きました。キリストは家によって予表されており、神の裁きからわたしたちを保護します——ヘブル 10:19. 出 12:13, 23。
  2. イスラエルの子たちは、その戸が血で触れられた家の中にとどまる必要がありました。彼らは朝までそこから出てはなりませんでした——22節：
    - a. わたしたちは、自分は無であり、キリストはすべてであるという認識を絶えずもって、キリストとの一体化を保持すべきです——ヨハネ 15:5。
    - b. 贖う血はわたしたちをキリストの中に保ちます——I ヨハネ 1:7, 9。

N. イスラエルの子たちは七日間、パン種のないパンの祭りを過越の祭りの継続として守らなければなりません——出 12:15-20. 13:6-7 :

1. キリストはわたしたちのパン種のないパンであり、純粹と眞実である罪のない命の供給であり、絶對的に純粹であり、混合がなく、実際に満ちています——I コリント 5:7-8。
2. イスラエルの子たちに対して何のパン種も見られてはなりません。このことが表徴するのは、わたしたちが意識している罪、現されている、すなわち見られているどんな罪をも対処しなければならないということです——出 13:7. 12:19. I コリント 5:7 前半. ヘブル 12:1-2 前半。
3. わたしたちの回心の日から携え上げの日までのクリスチャン生活全体（七日間によって表徴されている）は、祭り、すなわち豊かな命の供給であるわたしたちの祝宴としてのキリストを享受することであるべきです——出 12:16, 18-19。

II. わたしたちはキリストを仮庵の祭りとして享受することができます——ヨハネ7:

2. レビ23:39-43 :

- A. 過越の祭りは、神の贖いの開始としてのキリストを法理的に表徴しており、仮庵の祭りは、神の全体的な救いの完成としてのキリストを有機的に表徴しています——ヨハネ 6:4. 7:2. レビ 23:5, 34。
  - B. 神が仮庵の祭りを定められたのは、イスラエルの子たちが、彼らの父祖たちが荒野でさまよっていた時にどのように天幕（仮庵）の中で生きたかを記念するためでした。「仮庵」という言葉は、記念の思想を暗示しています——申 16:13-15。
  - C. 彼らがこの祭りのために共に集まって神を礼拝し、良き地からの彼らの産物を享受していたことは、ブレンディングの眞の絵です。
  - D. 仮庵の祭りの実際は、わたしたちがどのように神を経験し、神がどのようにわたしたちと共に生きられたかについての記念を享受する時です。
  - E. わたしたちがブレンディングのために団体的に共に集まって良き地の産物としてのキリストの豊富を享受する時、わたしたちは今日キリストを仮庵の祭りとして享受します。それは、わたしたちが依然として荒野にいて、永遠の幕屋である新エルサレムの安息の中へと入る必要があることをわたしたちに思い起こさせます——啓 21:2-3。
  - F. 新エルサレムが神の幕屋と呼ばれているのは、新エルサレムの最初の段階における勝利者たちが、どのように自分たちもまた天幕に住み、旅人また寄留者として地上で生き、永遠の幕屋、神の建造した都、神と人と相互の住まいを待ち望んだかを記念するためです——ヘブル 11:9-10, 13。
1. わたしたちがアブラハムの信仰の足跡にしたがって歩きたいなら、わたしたちは祭壇と天幕の生活をして、キリストをわたしたちの命とし、召会をわたしたちの生活としなければなりません——ローマ 4:12. ヘブル 11:9. 創 12:7-8. 13:3-4, 18 :
  - a. 祭壇を建てることは、わたしたちの生活が神のためであり、神がわたした

- ちの命であり、わたしたちの生活の意義が神であることを意味します——出 40:6, 29. 詩 43:4 前半. レビ 1:3, 9。
- b. アブラハムが天幕に住んだことは、彼がこの世に属さずに、地上で旅人の生活をしたことを証しました。天幕を立てることは、わたしたちがこの世に属さず、別のふるさとに属すことの表現、宣言です——ヘブル 11:9-10, 15-16。
2. わたしたちはアブラハムの真の子孫として (ガラテヤ 3:7)、地上で放浪者であるべきであり、彼が行なったように移動し、わたしたちの天幕を張るべきです (ヘブル 11:9, 13. I ペテロ 2:11)。
3. アブラハムは彼の第一の祭壇を建てた後 (創 12:7)、第二の祭壇をベテルとアイの間に建てました。ベテルとアイは互いに対比しています (8 節)。
- a. 「ベテル」は「神の家」を意味し、「アイ」は「崩壊の堆積」を意味します。
- b. 神の召された者たちの目に、ベテル、召会生活だけが価値があり、他のすべては崩壊の堆積です。
4. アブラハムは失敗し、祭壇と天幕を捨てたことがありました。しかしながら、彼には回復がありました。回復は、祭壇と天幕に戻って来て、主の御名を呼び求める事柄です——9-10 節. 13:3-4. ローマ 10:12-13. 12:1-2。
5. 最終的に、ヘブロンでアブラハムの天幕は、彼が神と交わりを持つ場所、神が彼と交わることのできる場所となりました——創 13:18。
6. アブラハムの天幕と彼が建てた祭壇は、証しの幕屋とイスラエルの子たちが建てた祭壇の予告でした——出 38:21。
7. アブラハムは旅人また寄留者であり、「土台のある都を熱心に待ち望んで」いました。「その設計者と建築者は神です」——ヘブル 11:9-10, 12-16。
8. アブラハムの天幕は、新エルサレム、究極の天幕、神の究極の幕屋の縮図でした——創 9:26-27. 12:8. 13:3. 18:1. 啓 21:2-3。
9. わたしたちは召会生活の「天幕」に住んでいるとき、その究極的な完成、すなわち究極的な「集会の天幕」、新エルサレムを待ち望んでいます——I テモテ 3:15. レビ 1:1. ヘブル 11:10。
- G. 仮庵の祭りは新エルサレムの享受であり、それは究極的に完成されて、まず千年王国において初穂、すなわち勝利者たちに対する褒賞となって、それから最後に究極的に完成されて、新天新地においてすべての成就された信者たちに対する神の満ち満ちた救いの全き享受となります。